第２章　第３次計画期間における成果と課題

１　第３次計画期間における取組・成果

第３次計画期間における主な取組とその成果を以下に示します。なお、計画の体系に沿った取組・成果・課題の一覧につきましては、別途、資料編（P.５４～９２）に掲載しています。

第３次計画期間の令和２年２月より令和４年度までは、新型コロナウイルス感染症の影響の為、多くの計画が中止せざるを得ない状況でした。そのような中、各担当部署では様々な工夫をしながら計画実行に向けて尽力しました。

Ⅰ　子どもの読書環境の整備・充実

▶図書館では、年齢に応じたおはなし会やかがくあそび、工作教室を実施しました。また、季節にあわせた特別行事を実施しました。（所沢図書館）

▶各保育園・幼稚園では、親子で読書を楽しんでもらえるように、絵本の貸出や園での読み聞かせ等を実施しました。また、子どもが本を手に取りやすいよう、絵本の展示を工夫するなどしました。（保育園・幼稚園）

▶各小中学校では、ボランティアの協力による読み聞かせ等を実施し、本に触れる機会を設けたほか、学校図書館や学級文庫の充実を図りました。コロナ禍においては、動画の配信等、工夫して読み聞かせ等を継続しました。（小中学校）

▶所沢市学力向上推進事業「所沢市学び創造アクティブＰＬＵＳ」において家読（うちどく）※の推進を位置付けて取り組みました。（学校教育課）

▶司書教諭の免許を持つ教員を全校に配置し、学校司書の配置は、中学校は、１校に一人の専任配置をしました。小学校は、段階的に配置を進め、１校に一人の専任配置を５校、２校に一人の兼務配置を２６校としました。（学校教育課）

▶各児童館では、各年代向けのおはなし会や本の貸出、本の紹介を行いました。（児童館）

※ **家読（うちどく）**：「家庭読書」の略語で、「家族ふれあい読書」を意味する。親子で本を読んでコミュニケーションすることで、家族が楽しい時間を共有することを目的とする。

▶各公民館では、関連機関と連携した子育て講座等の開催の際に、絵本の読み聞かせやわらべうた、紙芝居の上演などを行いました。また、会場にて乳幼児向けブックリストの配布・設置を実施しました。（公民館・保育園・所沢図書館）

▶図書館では、子ども向け広報紙「ほんのもりのトベア」、月間行事カレンダーを毎月１回作成し、市立図書館全館のほか小学校、保育園、市立幼稚園、児童館に配布しました。（所沢図書館）

▶令和元年度、図書館では、図書館司書による北小学校ほうかごところへの出張おはなし会を実施しました。（所沢図書館）

▶令和元年度、図書館では、コロナ禍による臨時休館中において、館内に入って自由に本を選ぶことが出来ない児童に向けて、児童書おたのしみセットを作り、貸出を行いました。（所沢図書館）

▲写真　ほうかごところの様子

▲写真　図書館見学の様子

Ⅱ　学校・地域等の連携による推進体制の整備

▶小学校３学年全学級および希望する他学年の学級に対し、図書館司書※による学級訪問（ブックトーク）を実施したほか、図書館見学、中学生職場体験活動、学生ボランティア体験の受け入れを実施しました。（所沢図書館・小中学校）

▶小中学校と図書館の間に業務連絡便を運行し、調べ学習・総合的な学習の支援や、学級文庫の充実のため、図書館による学校団体貸出を実施しました。
また、県立高等学校にも業務連絡便を運行し、団体貸出を実施しました。
（所沢図書館・小中学校・県立高等学校）

▶令和２年度よりこども支援課、所沢図書館、健康づくり支援課の３課が連携し、「ところっこ親子ふれあい絵本事業※」を開始しました。（関係各課）

▶所沢第二幼稚園では、近隣施設との協力による「森の図書館」を実施しました。（幼稚園・所沢図書館分館）

▶市内医療機関（小児科・産婦人科）へ、図書館発行の「乳幼児の保護者向け図書館利用案内」と、リーフレット「赤ちゃんにえほんを」を配置しました。
（所沢図書館）

▶写真　森の図書館

※**図書館司書**：図書館に置かれる専門的職員。図書館の管理・運営、資料の収集・整理・保管、閲覧・出・レファレンスサービス（利用者の調べ物のお手伝い）等の、図書館に固有の専門的業務に従事する。

※**「ところっこ親子ふれあい絵本事業」**：１歳６か月児健康診査会場にて絵本の読み聞かせを行い、絵本の引換チケットを配布する事業。（当初は、４か月児健康診査が対象だったが、令和３年度から１歳６か月児健康診査へ変更）配布したチケットは、後日、図書館や地域の子育て支援施設で対象の絵本２冊から１冊選んで交換することができる。

▶令和元年度、令和５年度、図書館と市内県立高等学校司書との懇談会を実施しました。（所沢図書館・県立高等学校）

▶学校司書※研修会を年４回に増やし（コロナ禍は２回）、学校司書からの要望や実情を鑑みて、学校司書同士の情報交換の時間を設定したり、所沢図書館職員が講師となり、必要に応じて相談に応じたりしました。（学校教育課・図書館）

▶図書館では、読み聞かせボランティア講座を実施し、ボランティアの養成および支援を行いました。（所沢図書館）

▶関係機関との情報交換、連絡調整のため、「所沢市子どもの読書活動推進連絡会」を毎年設置し、定期的に開催しました。（関係各課）

Ⅲ　子どもの読書活動への理解や関心の普及・啓発

▶公民館において、毎年、所沢こどもルネサンス事業「おはなしのひろば」を実施しました。（社会教育課）

▶図書館では、年齢に応じた小中学生向けブックリストを毎年作成・配布し、ブックリスト掲載本を展示しました。（所沢図書館・小中学校）

▶小中学校では、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら図書室の開館日や貸出冊数を増やしたり、イベント（コンクール、キャンペーン）を実施したりして、興味・関心を高めました。
また、読書月間や読書週間に、「読書通帳」や「読書の木」、「読書ビンゴ」等で読んだ本の把握や意欲向上に取り組みました。（小中学校）

▶小中学校では、ポップ作りやしおり作りコンテスト等を行い、図書委員が主体的に取り組むようにしました。（小中学校）

▶高等学校図書館では、イベントや広報活動を活発に行い、図書館利用促進に努めました。（県立高等学校）

▶乳児家庭全戸訪問・４か月児健康診査でパンフレット「赤ちゃんにえほんを」や乳幼児向け図書館利用案内を配布しました。また、妊娠届出時にパンフレット「あかちゃんにえほんを」を配布し、赤ちゃん向け絵本の紹介に努めました。（保健センター）

▶おおたかの森トラスト・みどり自然課・図書館分館との共催でイベント「みどりの森と、本の森と」を実施しました。（所沢図書館分館）

※　**学校司書**：学校図書館担当教諭のもと、学校図書館の日常業務の実務にあたる職員。

２　第３次計画成果目標達成状況

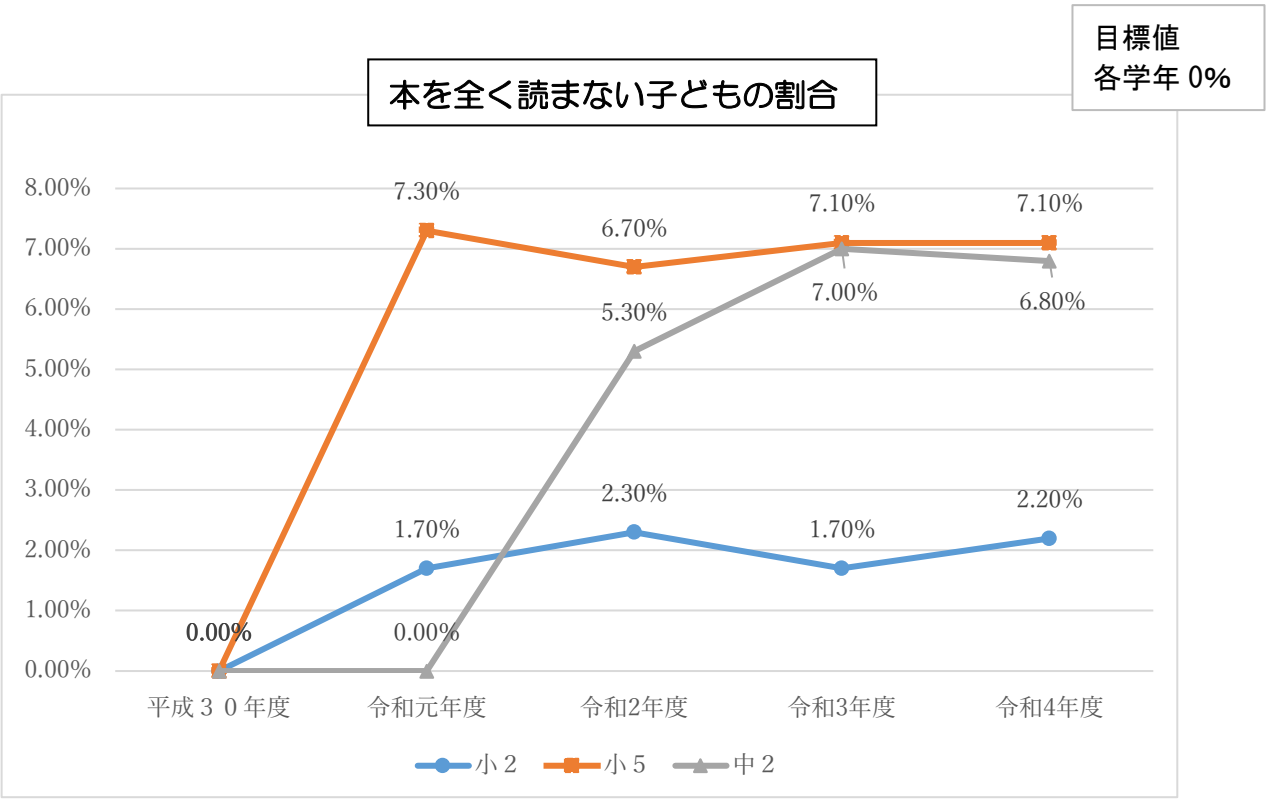
○本を全く読まない子どもの割合

市内全校による朝読書の取組により、平成３０年度には調査対象の小学２年生、５年生、中学２年生の各学年０％を達成しました。

しかし、令和元年度末に起こった新型コロナウイルス感染症の影響を強く受け、朝読書の時間が各小中学校でとれなくなったこと等により、第３次計画中は各学年０％を達成することができていません。

第３次計画期間における、本を全く読まない子どもの割合は、小学２年生は２％前後、小学５年生及び中学２年生は７％前後を推移しており、令和４年度の割合は小学２年生は２．２％、小学５年生は７．１％、中学２年生は６．８％となりました。国の平均値（小学生６．４％、中学生１８．６％／令和４年度）と比較すると市の割合は低いものの、数値目標までには程遠い状況です。

小中学校において、読書習慣を形成できるような取組が必要となっています。



（所沢市子どもの読書アンケート調査※より）

※　所沢市子どもの読書アンケート調査：子どもの読書活動推進計画において、現状を把握することなどを目的として行うアンケート。対象は小学校２・５年生とその保護者および中学校２年生とし、毎年ランダムに抽出したクラスに行っている。結果の詳細は、資料編（P.９３～１０６）を参照。

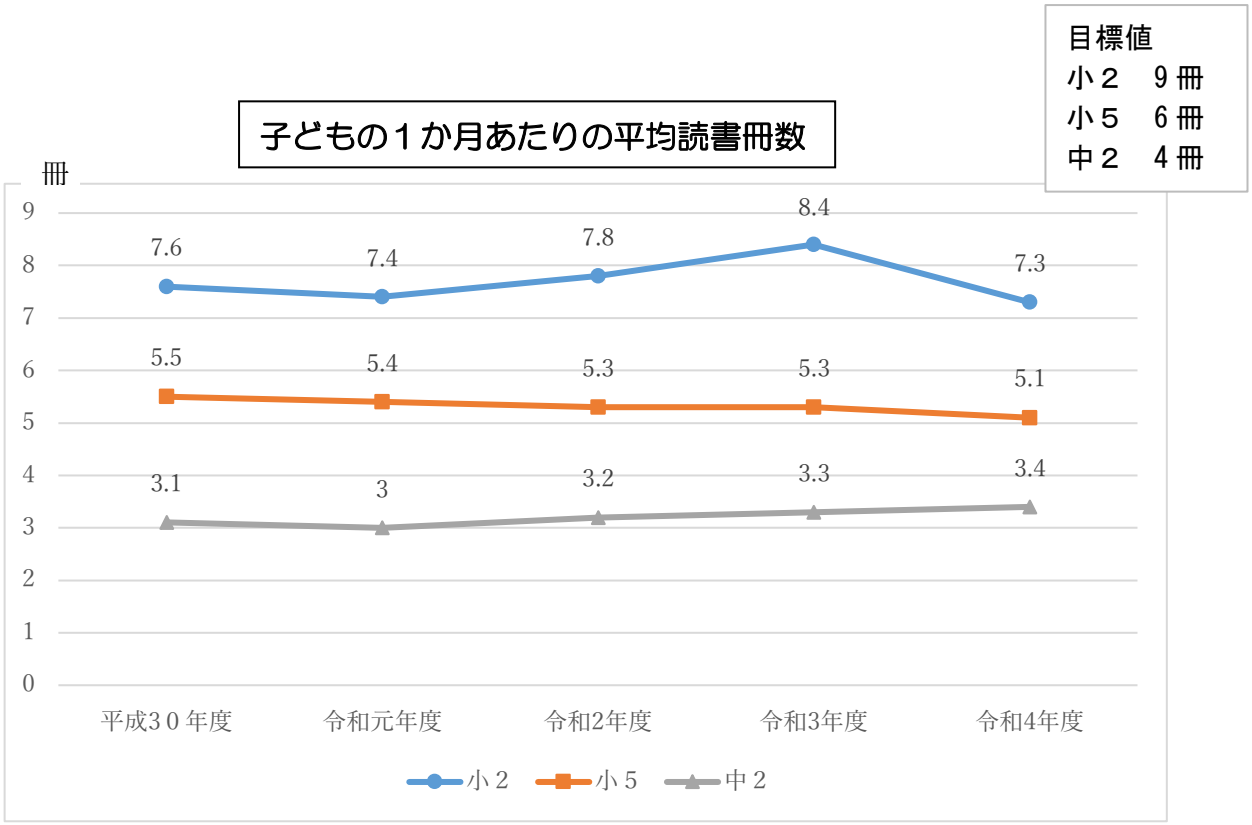
○子どもの１か月あたりの平均読書冊数

令和４年度に、小学校２年生で７．３冊（目標達成率８１．１％）、小学校５年生で５．１冊（同８５．０％）、中学２年生で３．４冊（同８５．０％）と中学校２年生で平均読書冊数の数値が改善されましたが、小学校２年生と小学校５年生は、数値が下がりました。

月に１０冊以上読む子が小学校２年生で４０．６％、小学５年生で２０．６％、中学２年生で８．７％と、本をたくさん読む子がいる一方、本を全く読まない子どもの割合が、小学２年生で２．２％、小学５年生で７．１％、中学２年生で６．８％でした。

また、１～２冊読む子の割合においても、小学２年生で１３．２％、小学５年生で２１．０％、中学２年生で４７．８％となっています。（P９３～１０６参照）

３次計画に続き、本をほとんど読まない子がいることが、目標達成できなかった要因になっていると考えられます。家庭や学校を中心に、さらに読書冊数を増やしていく取組を行うとともに、読書の楽しさやすばらしさを体験できる具体的な取組が必要です。



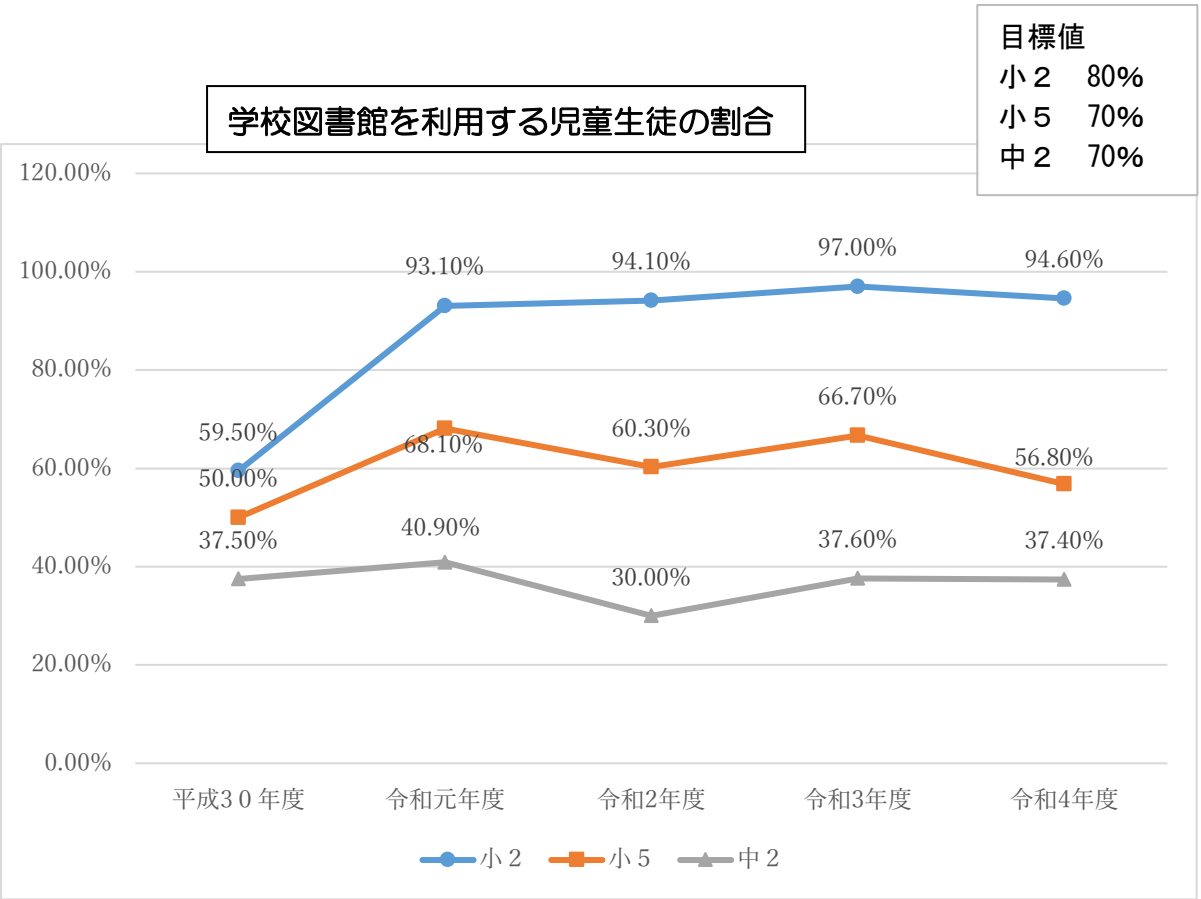
（所沢市子どもの読書アンケート調査より）

○学校図書館を利用する児童生徒の割合

小学２年生は、59.5%から 94.6%と学校図書館を利用する児童生徒の割合の数値が大幅に上昇しましたが、小学５年生では、50.0%から 56.8%と微増、中学２年生では、37.5%から 37.4%と数値が横ばいの結果でした。また、小学２年生は目標を達成できましたが、小学５年生、中学２年生は目標値を達成することができませんでした。

これは、小学２年生は、図書館見学や読み聞かせにより学校図書館が身近で利用しやすいものになっているのに対し、小学５年生や中学２年生は、新型コロナウイルス感染症のため中止になるイベントが多かったり、密になることを避けるための対応が影響したりしていると考えられます。

各学校は、学校図書館利用推進のため、学校図書館の活用と機能向上を図る必要があります。



（所沢市子どもの読書アンケート調査より）

○学校図書館図書標準※の達成率

学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、文部科学省が定める基準に対する達成率です。100%を下回っていますが、新規購入や古い図書の除籍等、学校により蔵書管理に差異があることが要因の一つとして考えられます。

引き続き、図書の新規購入や除籍などの適切な蔵書管理が必要です。

（単位　%）

	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度
小学校	100	99.7	98.3	99.4
中学校	94.8	95.3	95.2	97.9

（学校図書蔵書数一覧（教育総務課調査）より）

＜参考＞

◎第６次「学校図書館図書整備等５か年計画」の策定

令和４年１月、国は、令和４年度から令和８年度を対象期間とする第６次学校図書館計画を策定した。同計画は、全ての公立小中学校等において、「学校図書館図書標準」（平成５年３月２９日付け文部省初等中等教育局長決定）の達成を目指すとともに、計画的な図書の更新、学校図書館への新聞の複数紙配備及び学校司書の配置拡充を図ることとした。

（第６次「学校図書館図書整備等５か年計画」より）

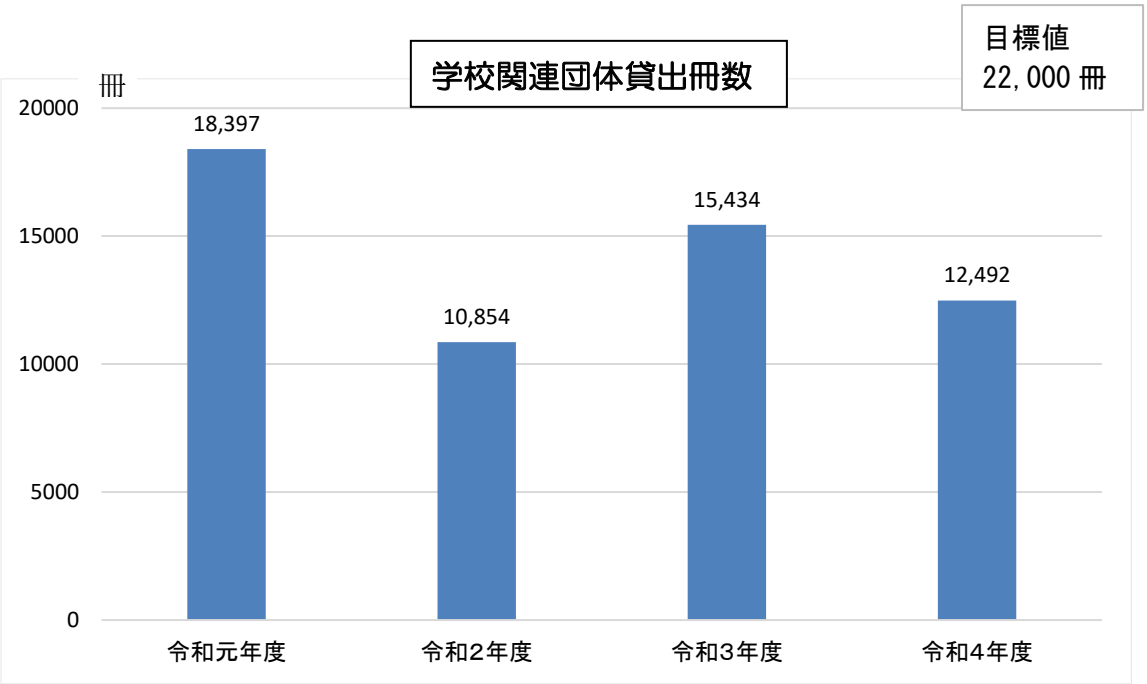
所沢市マスコットキャラクター
トコろん

※　**学校図書館図書標準**：文部科学省が定めた、小中学校の学校図書館の蔵書についての学校規模（学級数）に応じた整備目標

○学校関連の団体貸出冊数

市立図書館から学校関連団体（小中学校・幼稚園・保育園・高等学校・特別支援学校・児童館・放課後児童クラブ※・所沢児童相談所等）に貸出した図書等の数です。

貸出冊数も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で少なくなっていますが、徐々に回復してきていますので、引き続き、各施設等での読書活動が活発になるよう事業を進める必要があります。



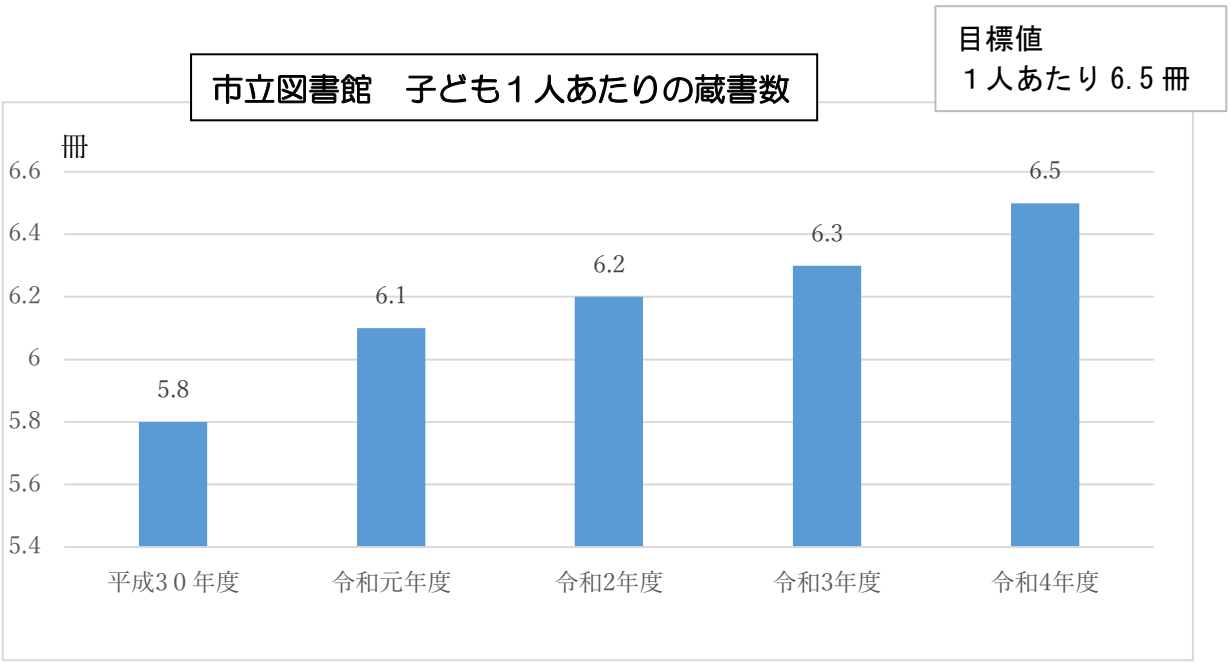
（所沢図書館統計より）

※　**放課後児童クラブ**：放課後の留守家庭児童に、遊びや生活の場を提供し、その健全育成を目的とし実施している事業。この中に児童館で預かる生活クラブも含まれる。令和５年度現在５３ヵ所設置。

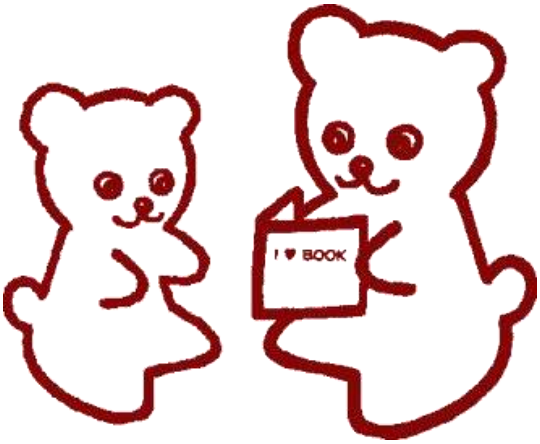
○市立図書館　子ども１人あたりの蔵書数

計画的な所沢図書館蔵書購入により、子ども１人あたりの児童書数は、5.8 冊から 6.5 冊に増えました。児童書の総蔵書数で見ても、315,648 冊から 322,513 冊に増えています。

第３次計画においては、目標達成に至りました。第４次計画では、さらなる充実に努めていく必要があります。



（所沢図書館統計より）



所沢図書館マスコットキャラクター
トベア

○子ども向け行事の参加者数

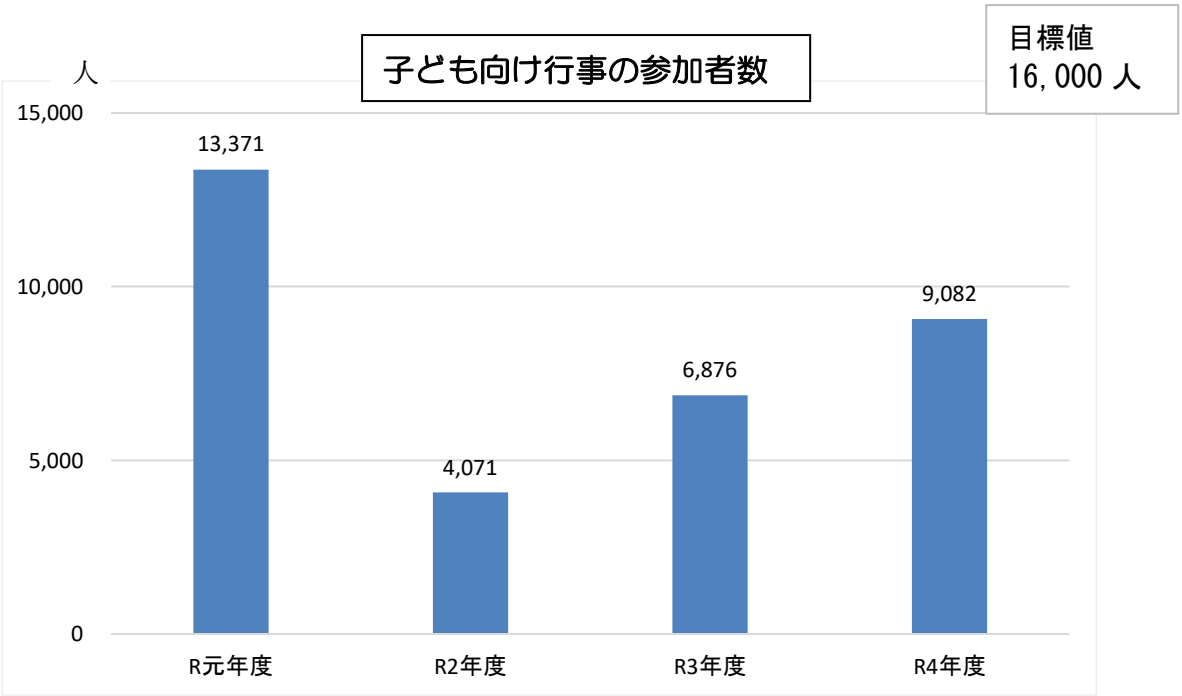
所沢図書館が実施する子ども向け行事の参加者数です。

新型コロナウイルス感染症の影響のため中止になる行事があったり、密になることを避けるため人数制限をしての開催となった為、参加者数は大幅に少なくなっています。

徐々に制限が解除され、令和５年度にかけて新型コロナウイルス感染症対策前の状況に戻りつつあります。

子ども向け行事としては、定例のおはなし会、かみしばいの会、かがくあそび等がありますが、長期休業中や行事の時には「かがくあそびスペシャル」や「夏休み工作教室」、「クリスマスおはなし会」等の特別な行事を開催し、多くの参加者が集うようになりつつあります。

今後も、魅力ある行事を継続的に開催していくことが大切です。



（所沢図書館統計より）

３　第３次計画期間における課題

Ⅰ　子どもの読書環境の整備・充実

▶ 各小中学校の学校図書館や学級文庫の蔵書数がまだ十分でない学校もあります。学校図書館の利用を促進するためには、魅力ある蔵書をさらに豊富に揃えていくことが重要です。また、古くなった本は定期的に整理し、子どもたちの興味を惹くような棚づくりをしていく必要があります。（小中学校）

▶ 子どもの本のコーナーを設けている施設のうち、スペース等の問題により、安定した読書環境が作れていない施設があります。また、限られた予算内で、新刊図書を十分に購入することが困難なため、各施設の子どもの本のコーナーの図書は古くなったものが多く、子どもたちが読みたいと思う本に出会いにくい状況です。（市内施設）

▶ 学校により、学校図書館の蔵書管理体制に差がある状況です。小学校に専任の学校司書を配置し、蔵書管理体制を整え、学校図書館の利用促進につながるよう努めることが重要です。（小学校・教育総務課・学校教育課）

▶ 朝読書の時間については、市内全校で取り組んでいますが、回数や時間等、読書の習慣化の為の学校での工夫が必要となっています。（小中学校）

▶ 学校ごとに作成している、図書館を活用するための計画に基づいて、学校図書館を活用した取組をさらに充実させていく必要があります。（小中学校）

▶ 新型コロナウイルス感染症の影響で団体貸出を中止する団体や施設があり、貸出数が伸び悩んでいました。また、学校団体貸出について、どの学校も同じ時期に同じように授業を進めているため、欲しいと思ったときに思うように本が借りられず不便な状況が生じています。（小中学校・所沢図書館）

▶ 蔵書管理体制が電子化されていない学校図書館があり、必要な本の検索ができない状況です。（小中学校）

▶ 電子書籍は、子どもたちに読書環境を提供するうえでの新たな可能性です。デジタル化に伴い、今後整備について検討を重ねていく必要があります。（高等学校）

Ⅱ　学校・地域等の連携による推進体制の整備

▶ 子どもの読書推進にあたり、人員不足やスキル不足の影響で図書の整理、修理、増設などが困難になっている施設があります。新型コロナウイルス感染症の感染拡大前に行っていた所沢図書館職員による研修会の再開および、相談業務や講師派遣等を活用し、職員個人のスキルアップを図る必要があります。（市内施設・所沢図書館）

▶ 子どもの読書活動に関する地域団体・ボランティアのネットワーク構築に関して、現状では把握しきれていない部分や、情報提供が行き渡っているかの確認がとれていない状況があります。関係機関が協力し、さらなるネットワーク体制を充実させることが必要です。（小中学校・関係各課）

▶ 所沢市子どもの読書アンケート調査によると、年齢が上がるにつれて、読む本の冊数や、図書館を利用する頻度が減少する傾向にあり、特に、興味や関心が広がる中学生・高校生世代において「読書離れ」が顕著になっています。しかし、心身の成長が著しいこの世代は、読書に対する興味を持てれば、自発的に豊かな読書体験を積むことができる年代でもあります。中学校・高等学校等との連携を密にしながら、限られた予算の中でどのように中学生・高校生世代の読書活動を支援していくかが課題となっています。（中学校・高等学校）

▶ 新型コロナウイルス感染症の影響により、小学校での読み聞かせボランティア活動が中止となりました。現在は、徐々に活動を再開し始めていますが、ボランティアが離れてしまった小学校もあり、豊かな読書活動の推進のため、読み聞かせをする機会の確保等の充実を図る必要があります。（小学校）

Ⅲ　子どもの読書活動への理解や関心の普及・啓発

▶ 乳幼児健康診査・子育て学級等、さまざまな機会を利用して保護者への啓発に努めていますが、価値観が多様化する現代社会においては、読書習慣が身についている子とそうでない子の差が大きくなっています。いかにより多くの保護者に子どもの読書活動の重要性を理解してもらえるかが課題となっています。（保健センター、公民館、幼稚園・保育園、児童館）

▶ 子どもたちの成長には、幼稚園・保育園、学校、家庭以外にも、公民館、児童館、図書館など、さまざまな機関が関わっています。これら子どもに関わる各機関や関係者に対し、子どもの読書活動についての理解や関心をさらに普及・啓発していくことが必要です。（幼稚園・保育園、小中学校、関係各課）

▲写真　イベント学校図書館の様子

▲写真　学校図書館司書研修の様子